

<第2号>

仙台市青葉区堤通
雨宮町1番1号
(〒981)
東北大学農学部
国際交流委員会
No.2 Nov. 1997

緑のかけはし

International Communication for Division of Agriculture (ICDA)



就任のごあいさつ

農学部国際交流委員会委員長 佐藤英明



今年4月から、国際交流委員会のお世話をするようになりました。よろしくお願ひいたします。

7月の教授会で決定されましたが、工学部を中心に動き始めております「短期留学生受入れプログラム」に農学部も加わるようになりました。国際交流委員会の大きな仕事の一つは、その具体案を作ることにあります。幸い、先生方、事務方の協力により、今年度中に具体案が得られる見通しです。

もう一つ、国際交流委員会としては、大学間交流協定締結の必要性を構成員に知っていただきたく思っております。国費留学生の推薦、国際交流会館への入居などにおいて交流協定締結校の出身者が優先される傾向にあります。留学生の便宜を考え、この点、ぜひ努力していただきたく思います。

私は北海道に生まれ、金沢で育ち、京都、ニューヨーク、東京で研究生活を送り、今年4月から仙台に赴任しました。新しいところで生活し、研究することはたいへん気分のいいものです。しかし、2年半ほどポストドクとして過ごしたニューヨークではすこし髪の毛が薄くなりました。文化、風土、言葉の異なるところで暮らすことの意味を実感しました。

農学部に留学している方々の多くは充実した日々を送っているものと思いますが、なかには、弱気になっている方もあるかもしれません。博士論文を書く、よい成果をあげるといふ目的そのものがストレスをもたらすでしょうが、異国でのストレスはより大きいものと思います。時々、留学しなければよかったと思うこともあるでしょう。しかし、いろいろなことを経験するからこそ留学の意義が大きいのだと思います。ぜひ、活発に研究生活を送り、仙台に来てよかったと思うようになっていただきたく思います。

国際交流にはいろいろなかたちがあるでしょうが、学内における留学生との交流を充実させることが、国際交流の基本と考えます。例年、留学生行事として見学旅行、オリエンテーション、送別会が行われます。ご支援のほどお願ひいたします。

ニ ユ ー エ ー ス 紹 介

農学部には、9月末現在、40名弱の留学生が在籍しています。ここでは、平成9年1月以降に、新しく農学部に入籍した留学生を紹介いたします。

- 事項
1. 国籍・年齢
 2. 身分
 3. 研究テーマ
 4. 出身学校
 5. 入学年月
 6. 趣味・特技
 7. 自己紹介

CAI CHENG YI 蔡 承 一

1. 中国・32才
2. 学部研究生
3. 食植性昆虫の寄主選択
4. 東北農業大学
5. 平成9年1月
6. サッカー、音楽
7. 私は、東北農業大学を卒業して、黒龍江省水稻研究所に勤めました。今年1月から東北大学の農学部昆虫学研究室で昆虫学を勉強しています。

FAN WEI REN 范 為 仁

1. 中国・32才
2. 学部研究生
3. 日中農村社会構造の比較研究
4. 中国人民大学
5. 平成9年4月
7. 中国から参りました范です。農耕民族の子孫としての私が、意外に遊牧民の心を持っています。今まで日本語とか国際関係論とかいろいろな領域に触れましたが、長く耕すことができませんでした。

もちろん、それなりの成果もありませんでしたが、これから相変わらず遊牧民の目で、今まで住んできた村を見直したいと思います。ただ願わくば、一を以って貫くことができるように！どうぞ、よろしく願います。

ZU JIAN ZHANG 張 祖 建

1. 中国・30才
2. 博士課程後期3年の課程1年
3. 障害型冷害の耐冷性におけるイネの体質に関する研究
4. 揚州大学農学院
5. 平成9年2月
6. スポーツ、旅行
7. 今年2月東北大学に私費留学にきました。4月から農学研究科資源生物科学専攻の博士後期課程に入学しました。東北大学で3年間の研究をうまくして、いい論文を提出するために、一生懸命頑張りたいと思います。よろしく願います。

LIU ZHAO CHANG 劉 灶 長

1. 中国・32才
2. 博士課程後期3年の課程1年
3. イネを材料にサイトカイニンの役割と制御機構
4. 中国江西農業大学
5. 平成9年4月
6. バレーボール、卓球などのスポーツやその観戦、米国映画の鑑賞
7. 私は、96年10月に中国政府派遣研究員として初めて日本へ来ました。1年経って、いい思い出を作りました。こちらの作物学研究室でやっている研究に興味を持っているので、続けてその研究をやりたいです。今年4月、私費留学生として博士後期課程に入りました。中国で何年間も大学で働いて、今勉強したりアルバイトしたりしている状態に、本当に易くないと感じました。

CHAO YONG YEON 趙 龍 衍

1. 韓国・30才
2. 博士課程後期3年の課程1年
3. Knock-out mouseの製作
4. 忠南大学校大学院
5. 平成9年4月
6. スポーツ (バスケットボール)
7. 私は、韓国からの留学生です。私の家族は3人です。子供はいま1歳半ですが、ほんとにかわいいです。

● 教官の外国出張

(平成8年度)

平成8年度における教官等の外国出張、海外研修等は延べ85人である。出張先はアメリカ13名、韓国12名をはじめ、フィリピン(8名)、フランス(6名)、イタリア、中国(各5名)、イギリス、ドイツ(各4名)、カナダ、オランダ、ベルギー、オーストラリア(各3名)、マレーシア、インド、マダガスカル、タイ(各2名)、香港、オーストリア、スウェーデン、デンマーク、インドネシア、スペイン、シンガポール、ベトナム(各1名)の24か国に及んでいる。(なお、出張先については、1人で数か国に及ぶ場合がある。)

● 学術交流協定締結大学との交流

(平成9年1月~)

タイ国、カセサート大学

平成9年3月

神尾教授、阿部助手、共同研究でカセサート大学理学部を表敬訪問及び「熱帯資源の利用に関する研究」で共同研究を行った。

ハンガリー国、園芸・食品工科大学

平成9年6月

IPAIS名誉教授、共同研究で農学部を表敬訪問。

スペイン国、ピゴ大学

平成9年6月

安元教授、大島助教授、佐竹助手及び大学院学生3名が理学部及び海洋学部を表敬訪問。

● 農学部における外国人留学生

(平成9年9月現在)

平成9年9月現在の本学部における外国人留学生は15か国38名(うち女子11名)である。これを国別にみると、アジア地域の留学生が30名(全体の78%)を占め、なかでも中国15名(同39%)、韓国5名(同13%)と多い。この他の国・地域と留学生数は次のとおりである。

インドネシア、マレーシア(各3名)、ガーナ(2名)、アルバニア、ウズベキスタン、台湾、チリ、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、ブラジル、ベトナム、ロシア(各1名)

きょうかん りゅうがくせいたいげんき 教官の留学体験記

とうほくだいがくのうがくぶじよしや し の はら ひさし
東北大学農学部助手 篠原 久

私は、昨年の3月17日から今年の4月までの約1年間オランダのワーゲニンゲン農科大学に留学しました。半年間は文部省の在外研究としてでしたが、通してDepartment of Animal Breeding(東北大学農学部)の規模からするとほぼ2講座分のスタッフで受け入れてもらいました。

佐藤先生から「緑のかけはし」の原稿を書くようにとの依頼を受け(実は、その存在を知らずに滞りながら感じた日本)留学生としてオランダに滞在して感じた日本のこと、オランダと日本の留学生受け入れの違いなどを紹介するのであれば何かの参考になるのではないかと、思い込んで引き受けることにしました。

留学したオランダのWageningen(発音はワーヘニンゲンのように聞こえる)農科大学は、獣医を除くオランダでただ一つの農学系大学です。この街には3万前後の人が住んでいますが、大学関係者が3分の1を占めるといって学園都市です。大学の他にも国の農業試験場(DLO)が12の研究所を持っていますし、IACという国際的な農業普及機関もあります。さしずめ、オランダの農業に関する研究、教育と普及の中心がワーゲニンゲンということになるでしょう。

私は、事情があって家族を日本に残したままの単身での留学でしたので、学生や大学院生のための寮(写真)を紹介してもらいました。オランダでも小城市化がすすみワーゲニンゲン農科大学に進学するオランダ人の学生数が減少している(過去5年間で見ると5,900名から5,500名になっている)ので寮の中でも留学生の比率が増加していますし、我々のような短期や長期の在外研究者も寮のメンバーになっています。私が住んでいた寮ですが地上21階建て(約700人が暮らす、同じような高層アパートがワーゲニンゲンには8棟ある)で他にあまり高い建物のないワーゲニンゲンでは異様な感じすらします。一つのウィングに10名がコリド(共通の鍵を持ちトイレ、シャワー、電話を共同で利用します。私のところは各部屋にキッチンが付いていましたが、他の寮では共同キッチンしかなく食事も交替でつって一緒に食べる場所もあります)としていやがおうにも仲間意識が高まります。どこのコリドでもほぼ男女半々で日本のように男子寮、女子寮あるいは日本人学生寮と留学生寮のようにもわけてはいません。皆、和気あいあいと生活しています。

わたし、今回が初めての長期間の海外生活でしたの
 いろいろな点に興味及び、研究面での刺激を得
 ることができたのはもちろんですが、オランダの農
 業、自由化の中にある農業生産者の考え、大学での
 研究や教育システム、留学生の受け入れについて彼
 らのスタンス、そして厳しいオランダの環境対策に
 対する国民の反応などこの眼でみたり話を聞いたり
 して確かめられたように思います。もちろん私が接
 したり話をした人はごく一部の人ですができるだけ
 客観的に捉えてきたつもりです。フリースランドの
 酪農家で実習をして食べることへの感謝の気持ちを
 教えられたり、ある時はオランダ人学生と寮で夜中
 まで政治の役割について議論して共通する問題意識
 に驚いたり、ブラジル人の留学生とアマゾン熱帯雨
 林の乱伐を防ぐ道について意見を聞かせたり、ブラ
 ジルとホンジュラスの友達とはアルコールの力を借
 りてちょっとシャイなオランダ人女性について不満
 を言ったりでした。

総じて、オランダ人の気質からすると留学生だけ
 でなくハンディーを持った人に対しても手取り足取
 り、至れり尽くせりではなく相手に干渉しないとい
 うかこちらから頼まないとやってもらえないよう
 です。決して無視しているわけではなく、留学生には
 語学コースを充実し、高齢者のための施設は街の中
 心で車椅子でも行動が可能などところどころに
 人の周りの環境はできるだけ整えて個人の主体性を
 尊重する考えなのでしょう。

また、オランダでは Erasmus の交換留学制度や
 アフリカなどから留学生が多く、いろんなトラブル
 にも巻き込まれますので留学生には表のような
 Golden Rule が紹介されています。

GOLDEN RULES

(大学院留学生のために作られたもの)

1. Learn a bit of Dutch
Language, food, international attitude
2. Learn to cycle
Strong bicycle lock, keep it indoors, know how to mend it, have lights, buy an old ugly one.
3. Be sociable
Don't be shy, ask for assistance were needed, avoid being a bookworm, don't stay indoors, go out, join the sports club, contact a Dutch family.
4. Enjoy yourself
Make yourself a nice time, do what you like (within limits), pamper yourself.
5. Special offers
Careful with special offers 'cheap things are very expensive'.

6. Acquire information

Where to find shops, prices on open markets, about housing.

Inform yourself about Wageningen through the Wageningen guide.

7. Visit foreign countries close to the Netherlands.

8. Don't be afraid to ask although others don't ask you first.

このルールについては、少し説明が必要かもしれ
 ません。オランダの公用語はもちろんオランダ語で
 すが、私の居た学科では公的な会議はすべて英語で
 行われますし、講義もコースによっては英語です。
 日常の会話も院生や職員は上手な英語を話すのでオ
 ランダ語を覚える必要はそれほどありません。市民
 も英語を話せる人が、英語圏以外で一番多い国とも
 いわれています。ですから、「オランダのことも少
 し知って」ということで許されるのです。

オランダで生活する上での足は自転車です。車を
 規制していることもあります。自転車がないと生
 活できないと思えるほどです。そこで、結構、自転
 車の盗難(私も3台盗まれました)が多いのです。日
 本で使っているような鍵では全く安心できません。

最後に、私も留学生になってみて日本人は、日
 本にいる留学生や外国人を黙ってじろじろ見るだけ
 で気軽に話しかけることをしないのですが、これは
 疎外感を持つだろうと思います。また、ヨーロッパ
 にいると自分がアジア人であることを実感します。
 もっとアジアに目を向け、アジアでの交流を大切に
 すべきことも感じました。そして、恥かしいこと
 ですが、オランダに行き初めてオランダと日本が戦
 争をしたことのあることを知りました。第二次世界
 大戦の際、インドネシアで多くのオランダ人が犠牲
 になっているのです。ワーゲニンゲンの Museum に
 は寄せ書きのある日章旗が展示してあることから
 わかりますが歴史を大切にする彼らの反日感情も心
 に留めて置くことが日本人にとって必要でしょう。



地上21階建ての寮